

リニアメント付近露頭調査記録

- 追加資料 -

- 発足の平地部のリニアメント
- L-33のリニアメント
(知来川左岸のリニアメント)
- L-39のリニアメント
(中の沢[東]のリニアメント)



- 露出部は黒松内層の安山岩である。
- 本露頭中に断層は認められない。



- 露出部は黒松内層（凝灰角礫岩）である。
- 露頭中央部のシルト岩（淡黄色、厚さ30cm以下）は部分的に崩土におおわれている。

記 事： 一木川付近では、歌棄のリアクトは、東側の山地部と西側の崩状地との境に認められるものであるが、リアクトの西方約200mに位置する本露頭の如く、黒松内層の安山岩や凝灰角礫岩が崩状地堆積物の基盤として認められる。即ち、このリアクトを境に基盤地質が大きく変ることはない。



写真 ① 全 景

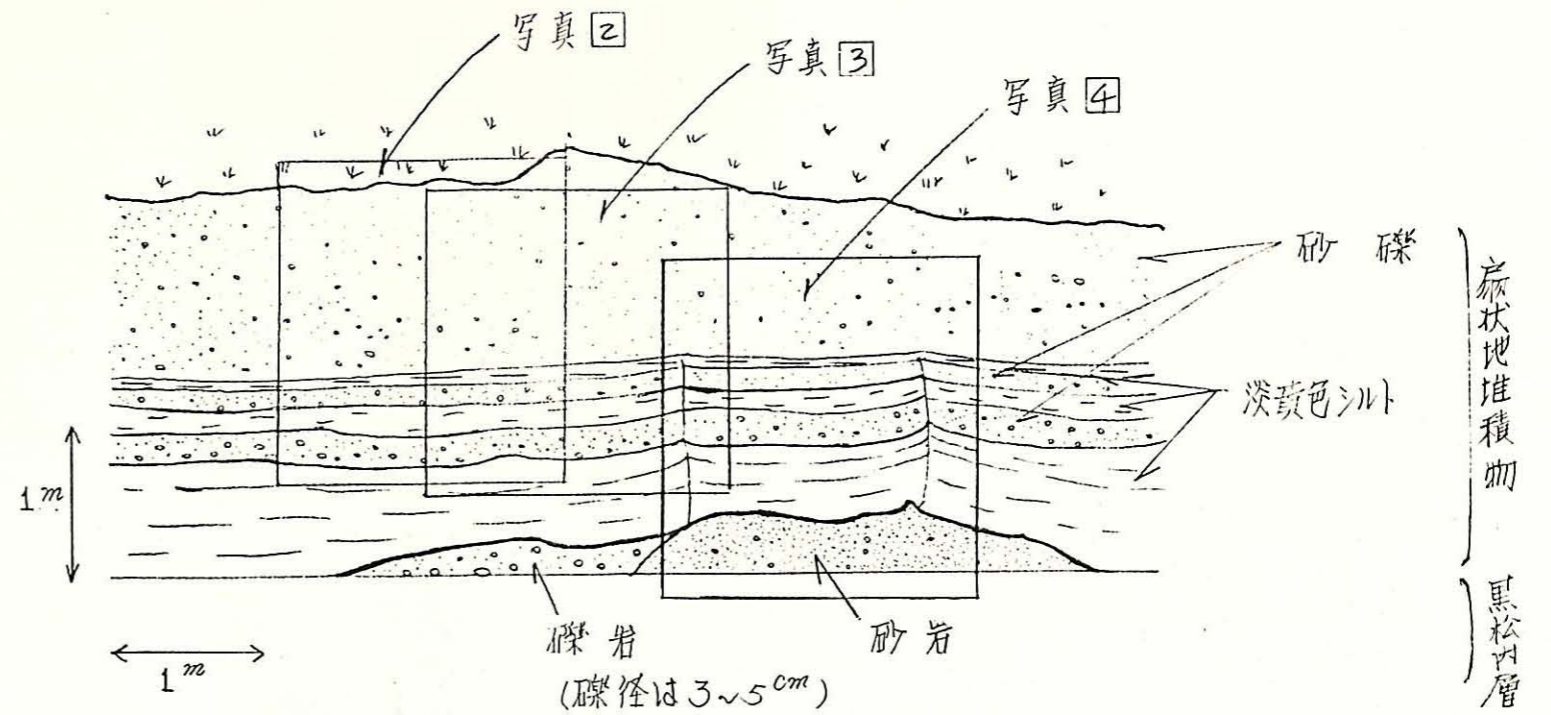


写真 ②



写真 ③



写真 ④

写真 ②~④ は、写真 ① の近影

- 礫岩、砂岩から成る黒松内層とこれを不整合に覆う扇状地堆積物
- 写真④で、地層が逆V字型に見えるのは、地層が手前に傾斜している、この部分が削られている為である。
- ウェン別川付近では、歌葉のリニアメントは、東側の山地部と西側の崖錐との境界付近に認められるものである。本露頭は、リニアメントの西方約200mに位置するが、崖錐堆積物の基盤として、黒松内層の礫岩、砂岩が認められる。即ち、リニアメント西側の崖錐地域にも基盤が随所に存在しており、南羊命のリニアメント付近に認められる地層が連続しているものと考えられる。



礫まじり粘土 / 安山岩質軽石凝灰角礫岩

写真1 露頭遠景

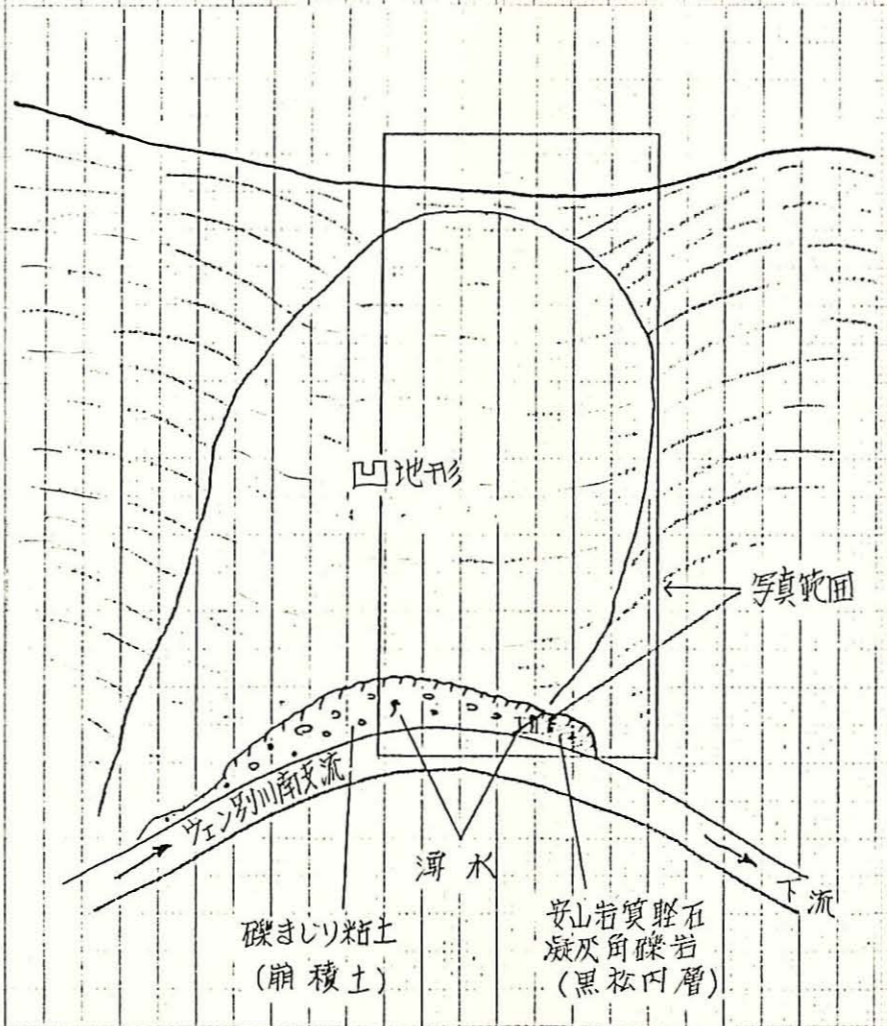


写真2 露頭遠影



礫まじり粘土 / 安山岩質軽石凝灰角礫岩

写真3 露頭近影

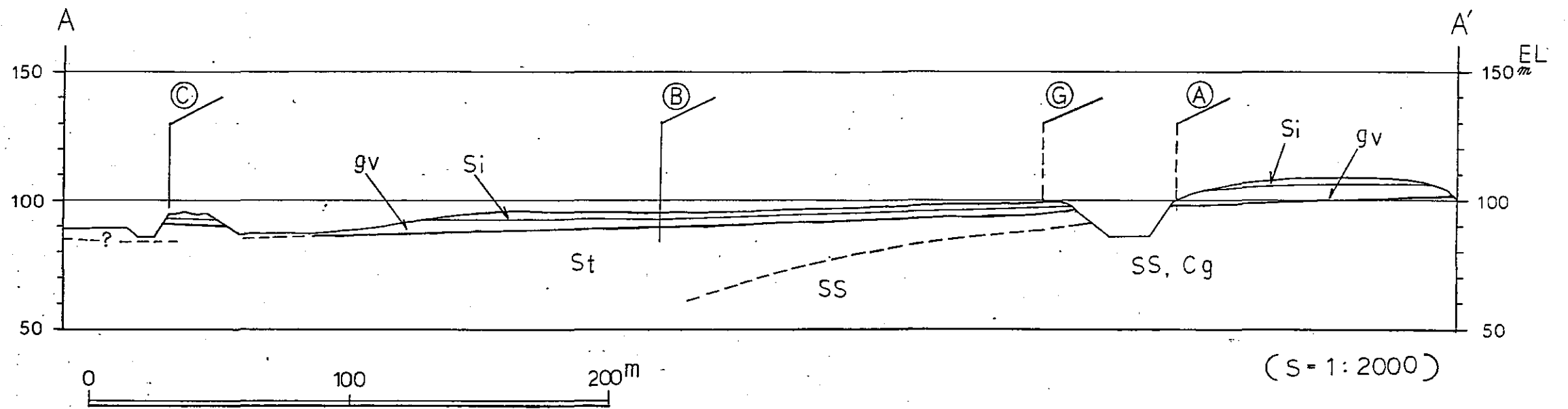


露頭概念図

。記 事

この露頭は、ウェン別川南支流の屈曲部に位置している。露頭上には、凹地形が認められる。これは旧崩壊地形もしくは旧谷地形であることを示唆する。露頭内の下流側には黒松内層の凝灰角礫岩が、上流側には垂河礫混り粘土(崩積土)が認められる。両者の地質境界の延長は露頭上の凹地形の縁辺部に連続する。地質境界は概ねなめらかであるが詳細にみれば、凹凸を呈している。また、地質境界面付近には礫が引きずられて異常な配列を示すところも認められないし、凝灰角礫岩中に断層の存在を暗示するような割れ目も認められない。

以上のような、地形・地質状況から、礫まじり粘土と凝灰角礫岩との関係は、崩壊もしくは旧小沢を埋めた堆積物が黒松内層を被覆しているものと考えられる。



地質凡例

Si

シルト

Pt

PEAT

Gu

砂礫

段丘堆積物

St

シルト岩

SS

砂岩

Cg

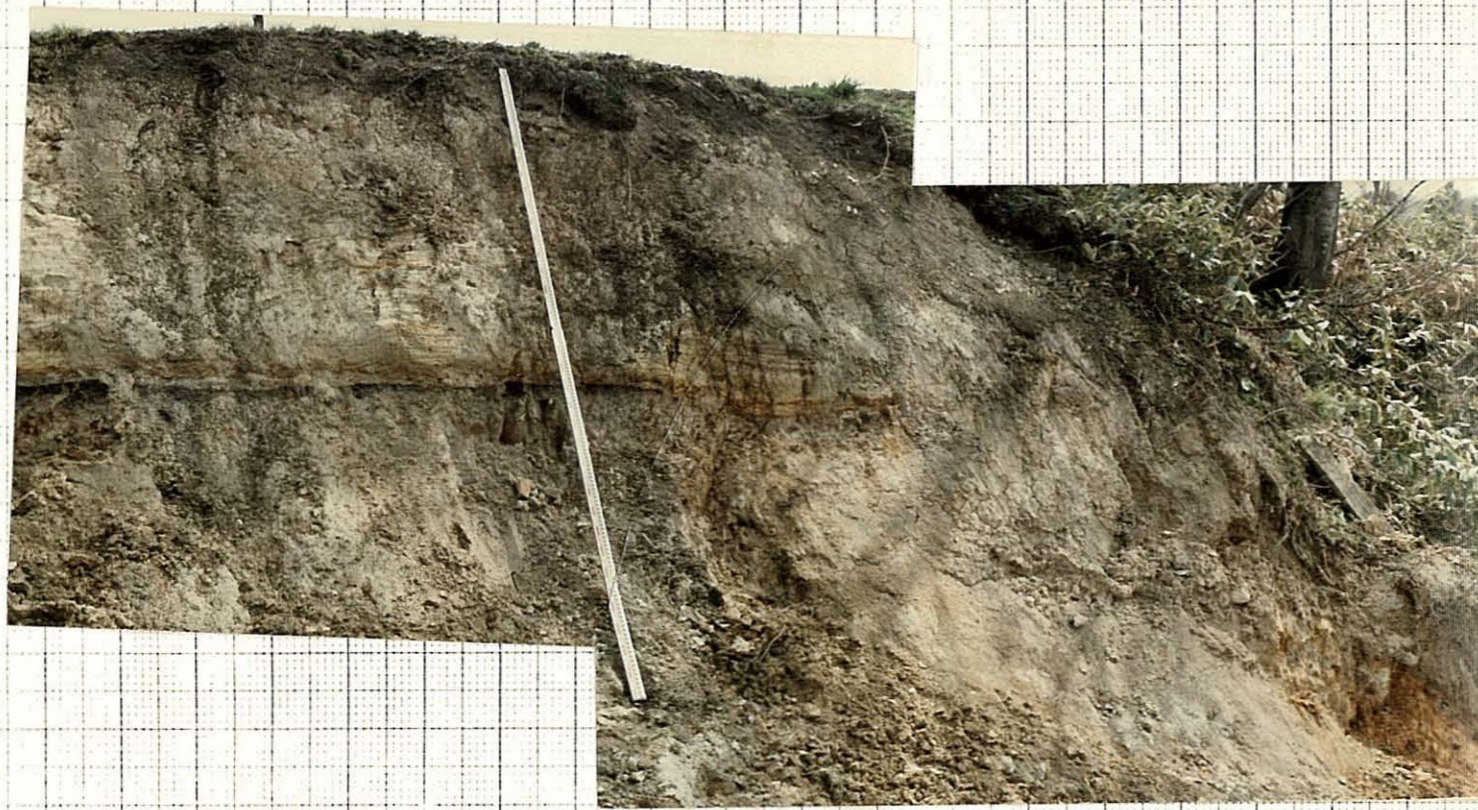
礫岩

瀨棚層

Ⓐ：露頭番号

(岩相は代表的なもののみ表示)

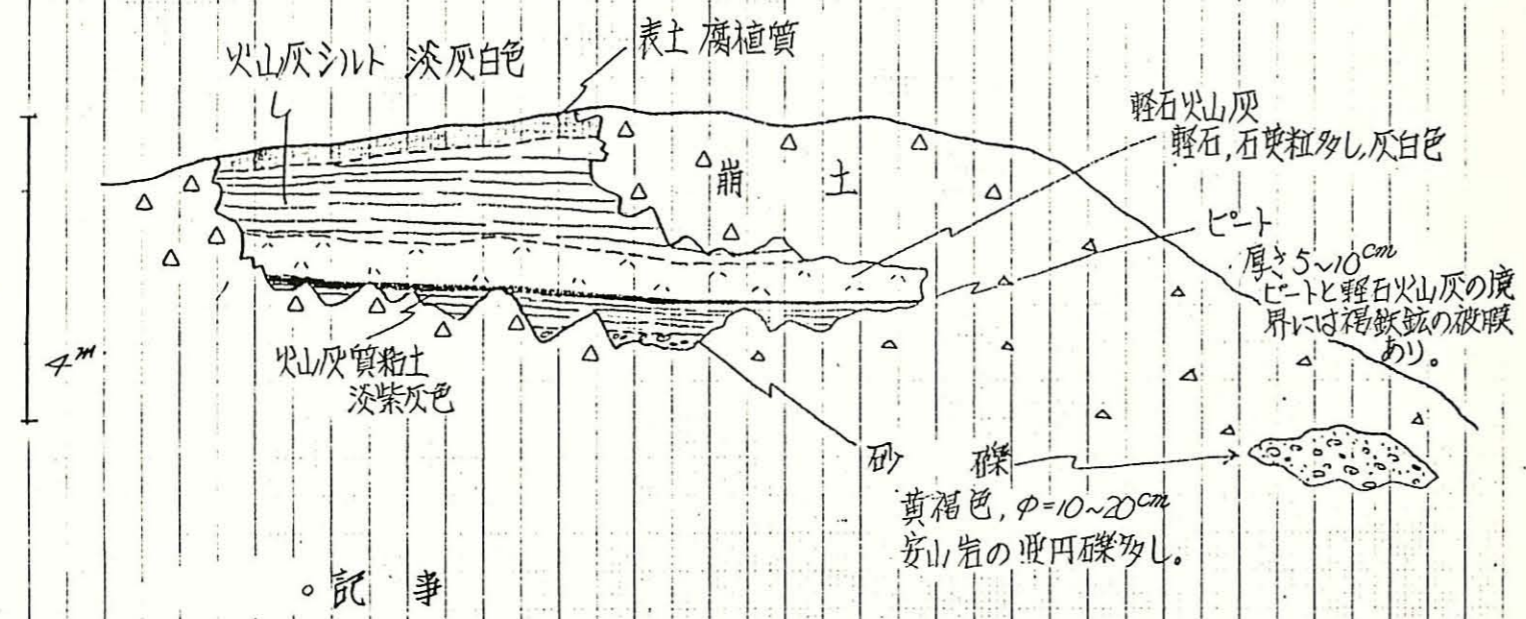
知来川河岸 (A, B 露頭 対岸) の 状 況



知来川左岸



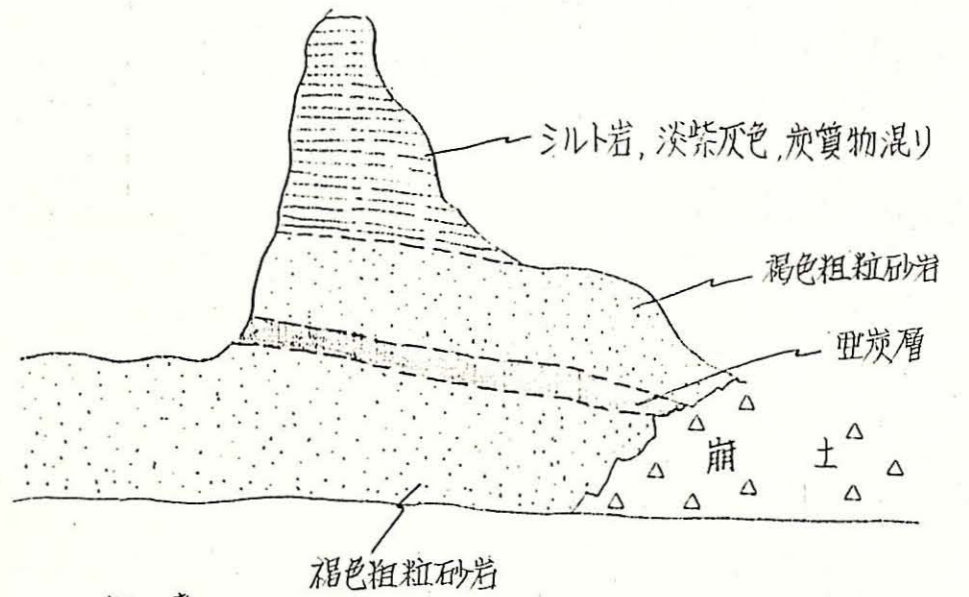
F 露頭 (段丘堆積物の露頭)



・記 事

F 露頭の層相は、下流部の D, E 露頭の段丘堆積物にはほぼ類似する。

G 露頭 (瀬棚層の露頭)



・記 事

G 露頭では、A 露頭の砂岩優勢岩相と B 露頭のシルト岩優勢岩相の境界部に相当し、砂岩の上位にシルト岩が整合に重なっている。

中の沢 紋別川支流



扇状地堆積物を構成する砂礫層（上位）と粘土・シルト層（下位）。両者の境界に測量用の地点杭を設置。



司上

○記 事

紋別川支流の左岸に露出する扇状地堆積物。
 下部は、粘土・シルト層、上部は砂礫層から構成される。
 砂礫層は、粘土・シルト層を削削して堆積している。
 このためその境界面は凹凸を呈し、局所的に上流側が低くなっているところもあるが、大局的には、下流側ほど位高度になっている。写真5に示すように、扇状地堆積物（砂礫層）の道る地形面は平坦で、下流側にゆるやかに傾斜している。

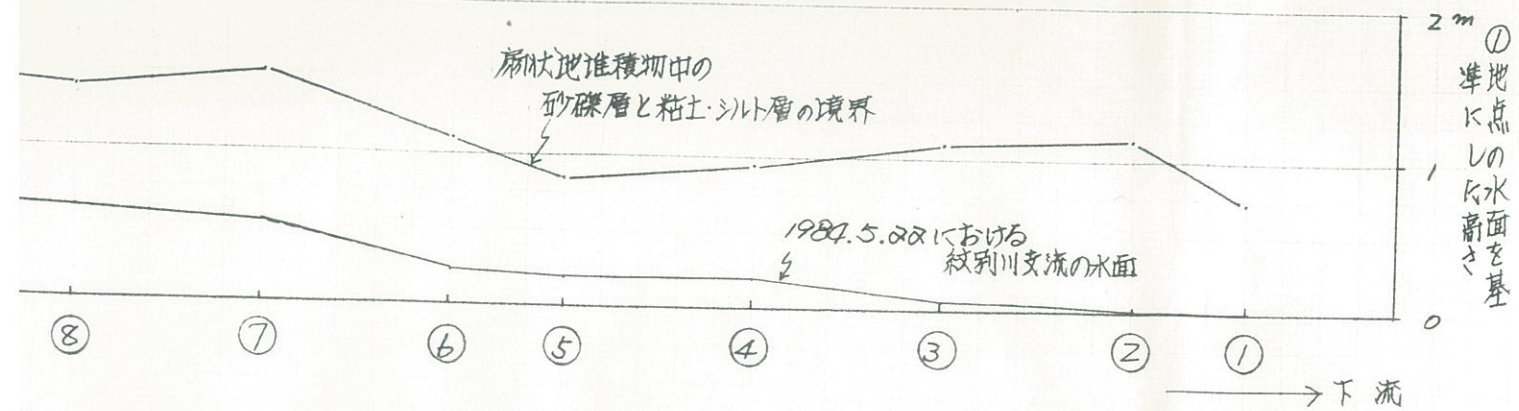


図-1

紋別川支流の水面および扇状地堆積物中の砂礫層と粘土・シルト層の境界面の実測図



写真1 扇状地堆積物を構成する砂礫層(上位)と粘土・シルト層(下位)、両者の境界に測量用の地点杭を設置。



写真2 同上

○記 事

紋別川支流の左岸に露出する扇状地堆積物。下部は、粘土・シルト層、上部は砂礫層から構成される。砂礫層は、粘土・シルト層を削削して堆積している。このためその境界面は凹凸を呈し、局所的に上流側が低くなっているところもあるが、大局的には、下流側ほど位高になっている。写真5に示すように、扇状地堆積物(砂礫層)の逆る地形面は平坦で、下流側にゆるやかに傾斜している。

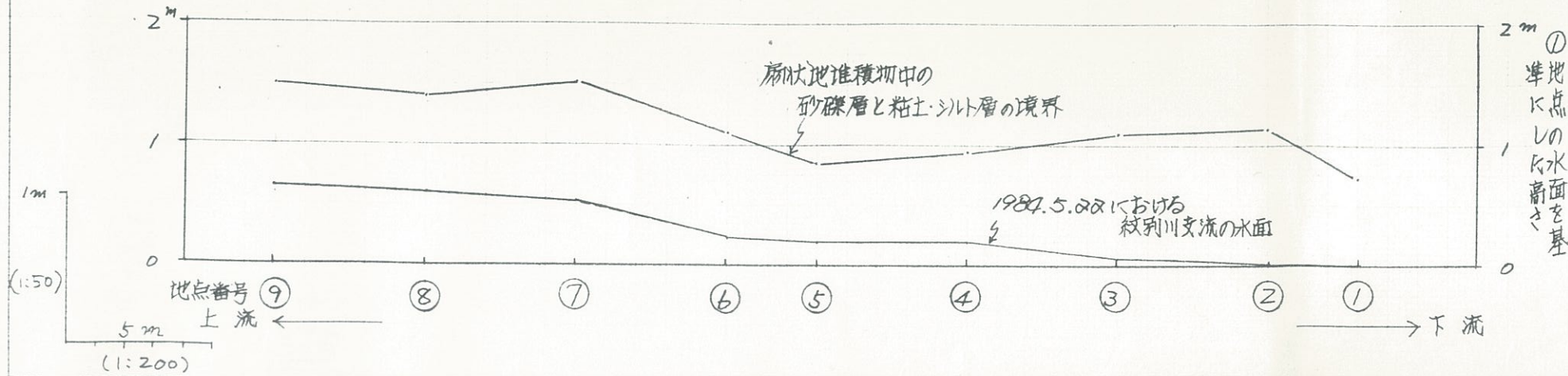


図-1

紋別川支流の水面および扇状地堆積物中の砂礫層と粘土・シルト層の境界面の実測図



写真 3 ⑥ 地点における砂礫層とシルト層の境界の一例。はめらかではない。



写真 4 同左(⑥地点)



写真 5 調査地全景。扇状地堆積物の造る面は、下流側にゆるやかに傾斜している。

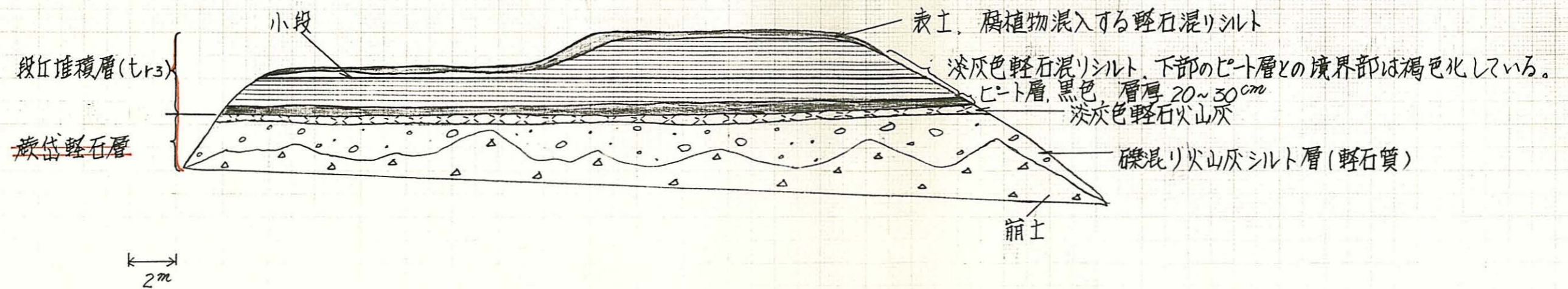


写真 6 測量風景

前回資料の訂正箇所



上り坂 露頭全景 下り坂 知来川

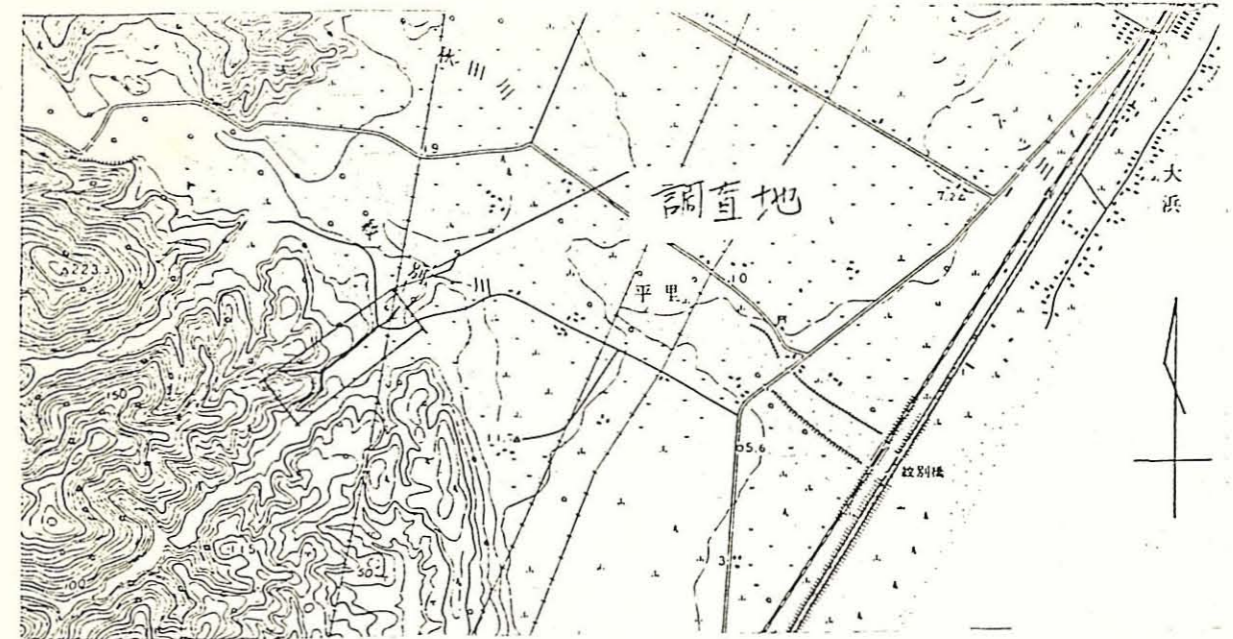


露頭中部のやや上の方に位置するピート層を介して、段丘堆積物(t_{r3})が麓部軽石層を覆っている。

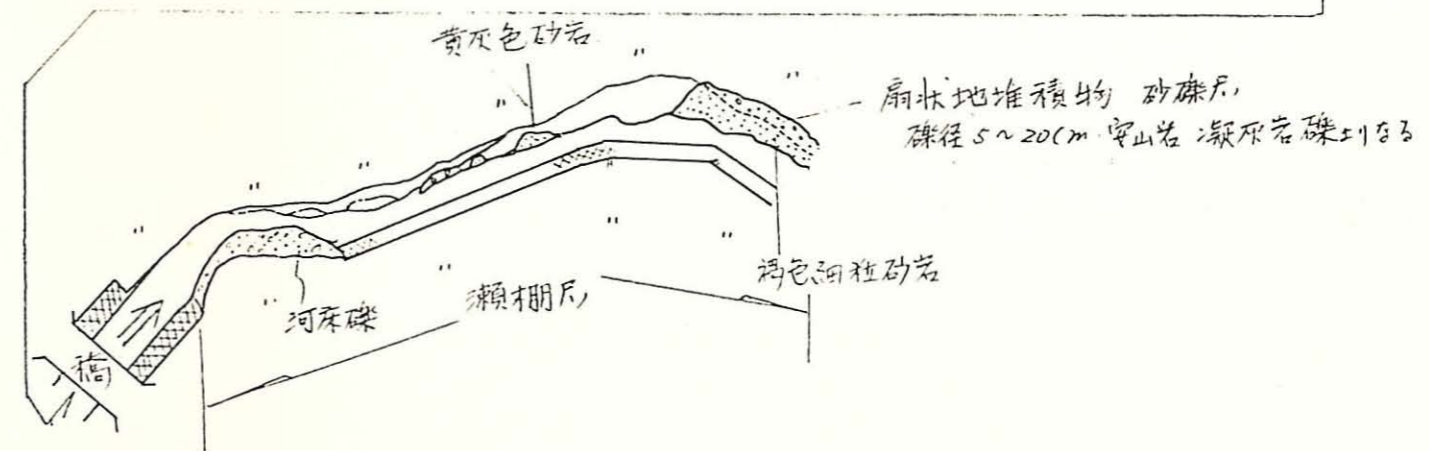
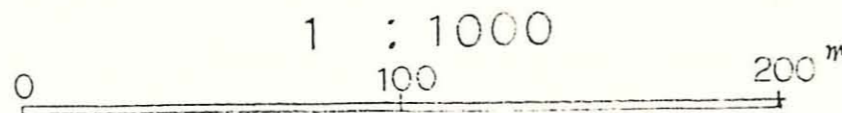
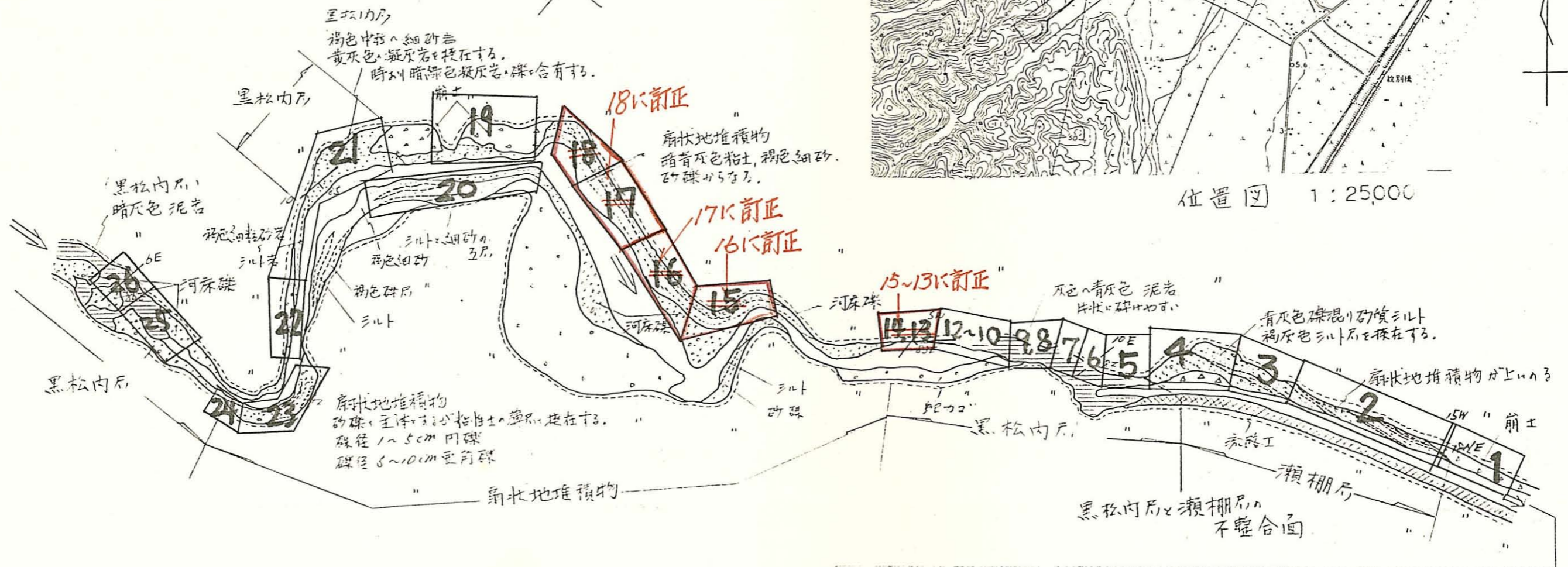
訂正文：露頭中部のやや上の方に位置するピート層を挟む段丘堆積物(t_{r3})である。

中ノ沢 (紋別川支流) 写真撮影位置図

1 : 1000

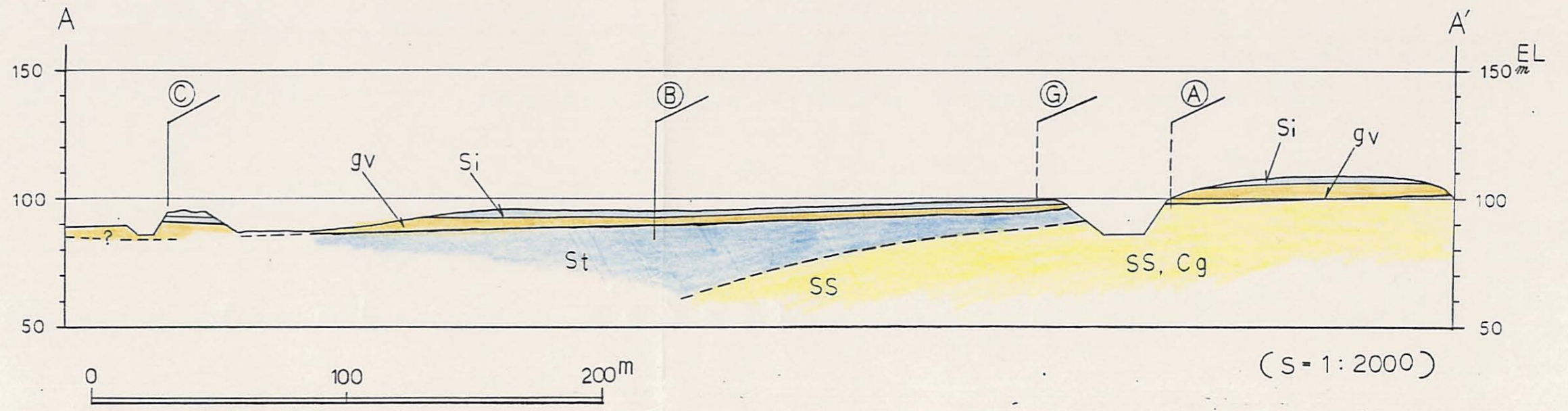


位置図 1 : 25000



凡例: 1 写真番号

記事: このルート沿いの地質は、黒松内石、瀧棚石および扇状地堆積物からなる。このうち、11が本河の不整合面を露出している。地質構造は、黒松内石は、N5°W~10°E・82°~86°E、瀧棚石は、N15°W・18°NEの走向・傾斜を示し、扇状地堆積物は、ほぼ水平に堆積している。

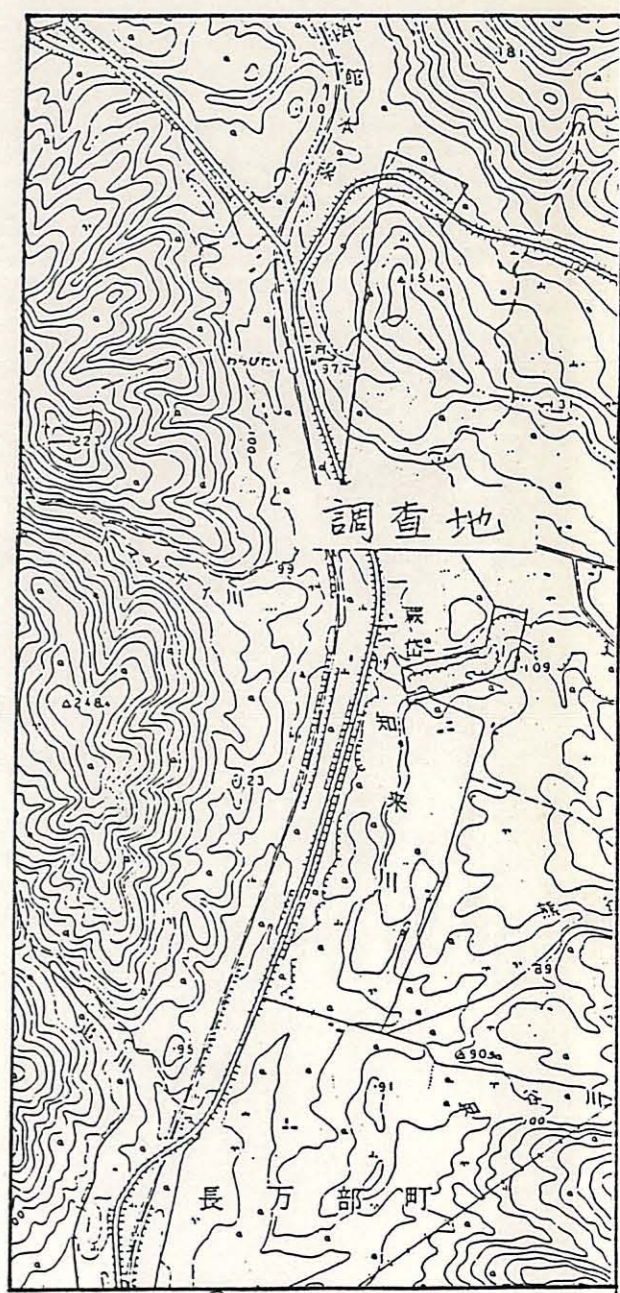
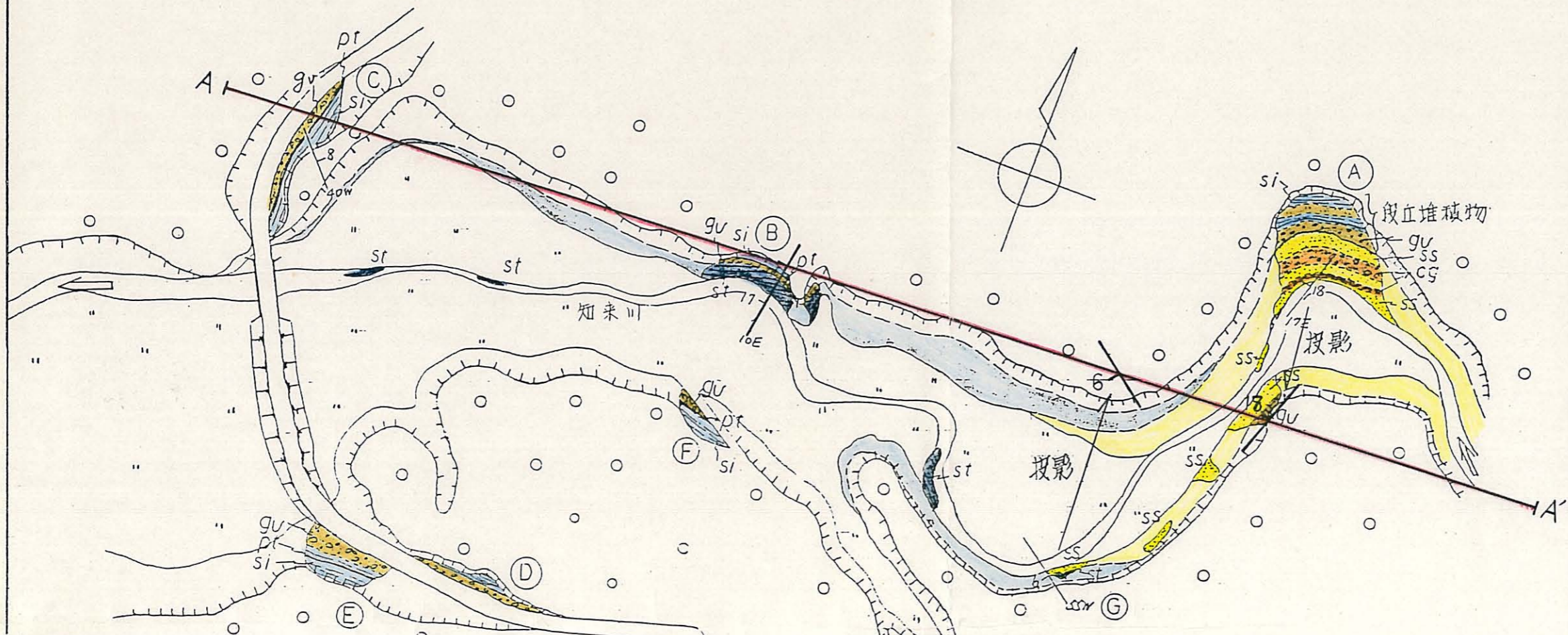


地質凡例

Si	シルト	}	段丘堆積物	St	シルト岩	}	瀬棚層
Pt	PEAT			SS	砂岩		
Gu	砂礫			Cg	礫岩		

Ⓐ：密頭番号

(岩相は代表的なもののみ表示)

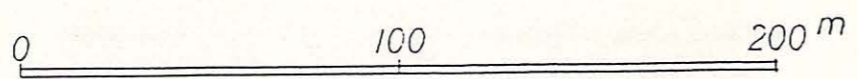


地質凡例

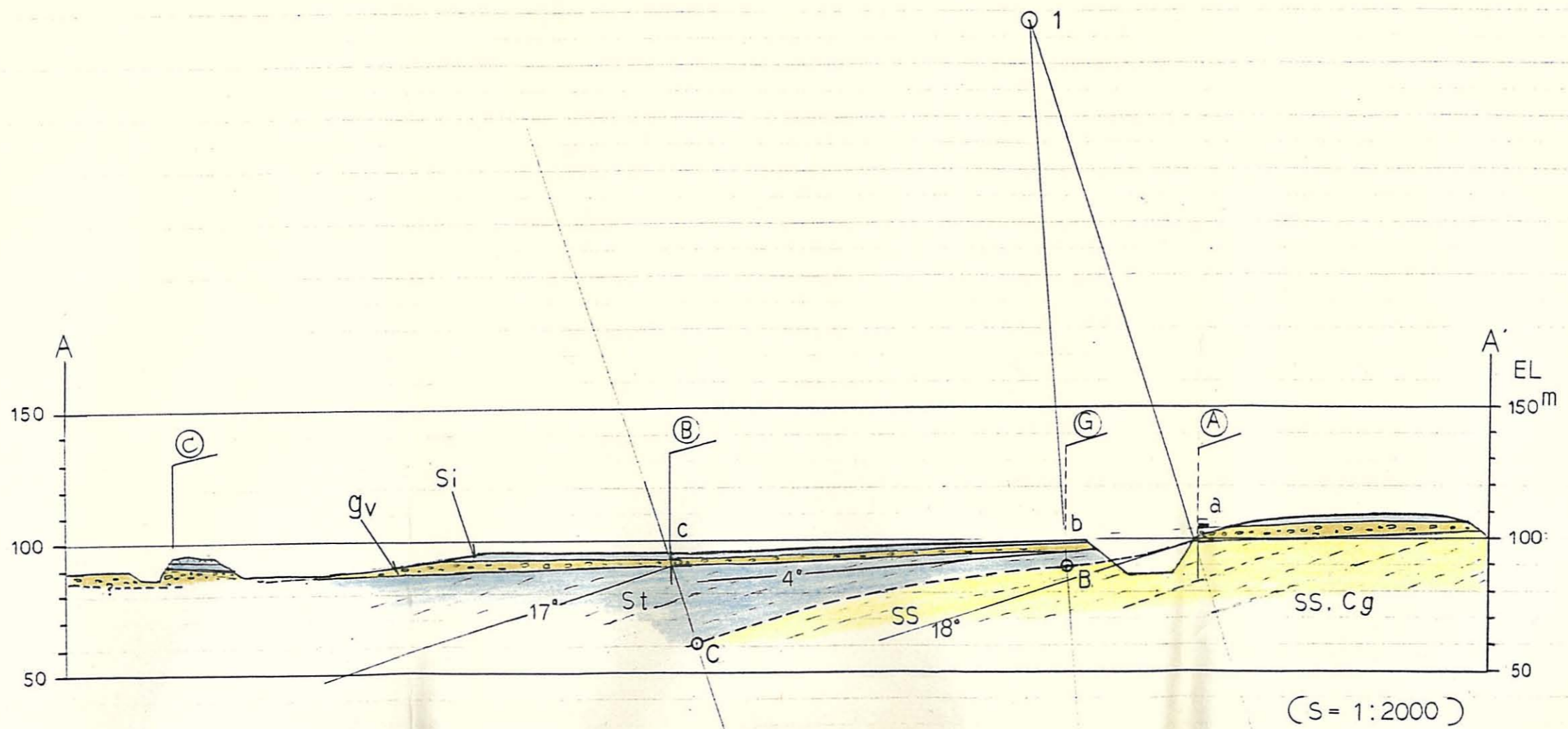
	シルト		シルト岩	瀨棚層
	PEAT		砂岩	
	砂礫		礫岩	
	段丘堆積物			

(岩相は代表的なもののみ表示)

地層の走向・傾斜
 地質境界
 露頭番号



・記 事： 段丘付近の知来川沿いには、シルト岩、砂岩、礫岩等からなる瀨棚層とこれを被覆するシルト、PEAT、砂礫等からなる段丘堆積物が分布している。本図に示すように、瀨棚層は、15°前後で西～南西側へ緩傾斜し、下流側に瀨棚層の上位層、上流側に下位層が累重して分布している。段丘堆積物は、ほぼ類似した層相を呈し、東から西へ、また、南から北へゆるやかに傾斜する傾向を示す。これは段丘形成期の堆積盆の形状に支配されたためと判断される。なお、A～B～C露頭の地質断面図を第5図に示す。



50

⊙ C

10

50

(S = 1:2000)

⊙ 2

